

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2024年1月23日

1. Lancet: ワクチン接種回数が減ると新型コロナ重症化が増加する：イギリスにおけるコホート調査
2. 下水サーベイランス：札幌 最新

【松崎雑感】

1. 新型コロナワクチンを受ける回数が多いほど、感染した場合の重症化（入院と死亡リスク）が3分の1前後に減っていたというイギリスのデータです。今後も、引き続き、新型コロナワクチン接種を続けるのが良いと思います。
2. 先週の札幌市の下水データでは、新型コロナ高止まり、インフルエンザ少し減ったか、と言う感じです。お正月で多くの方々が集まっての機会が多いせいかもしれません。冬休みが終わっての流行拡大も懸念されます。

ワクチン接種回数が減ると新型コロナ重症化が増加する：イギリスにおけるコホート調査

HDR UK COALESCE Consortium. **Undervaccination and severe COVID-19 outcomes: meta-analysis of national cohort studies in England, Northern Ireland, Scotland, and Wales.** *Lancet*. Published online January 12, 2024. doi:10.1016/S0140-6736(23)02467-4

背景

ワクチン接種回数が不足すると、入院あるいは死亡のリスクの増加と関連している可能性がある。ワクチン接種回数不足に関連する要因を特定し、英国各国および英国全土でワクチン接種が不十分な人々のCOVID-19の重篤な転帰のリスクを調査する必要がある。

方法

イングランド、北アイルランド、スコットランド、ウェールズでコホート研究を実施するために、全人口をカバーする電子カルテデータを用いた。対象は5才以上。2022年6月1日時点のワクチン接種回数を基に、新型コロナ感染の重症化の有無との関連を解析した。

地方別の分析の結果を英国全体の固定効果メタアナリシスに統合した。COVID-19の重症化率の低下度を、2022年6月1日に英国の全員がワクチン接種を完了したという仮定的シナリオと比較して推定した。

調査結果

2022年6月1日時点でのワクチン接種回数不足者の数は、イングランドでは58,967,360人中26,985,570人(45・8%)、北アイルランドでは1,885,670人中938,420人(49・8%)、スコットランドでは4,992,498人中1,709,786人(34・2%)、ウェールズでは2,358,740人中773,850人(32・8%)だった。

ワクチン完了率は、若年層、恵まれない背景を持つ人、非白人、併存疾患の数が少ない人で有意に低かった。コホートでは合計40,393件のCOVID-19の重症化が見られ、そのうち14,156件はワクチン接種回数の少ない人々だった。

2022年6月1日に全員がワクチン接種を完了するという仮定的シナリオを適用した場合、重症者の減少数は、5-15歳で210人(95%CI 94-326)、16-74歳で1544人(1399-1689人)、75歳以上で5426人(5340-5512人)と推定された。

75歳以上の年齢層では、ワクチンを十分接種した人々と比較して、1回少ない接種回数にとどまった人々では重症化リスクが2・70倍(2・61-2・78)、2回少ない接種回数で3・13倍、3回少ない接種回数で3・61、4回少ない接種回数で3・08倍に増加していた。

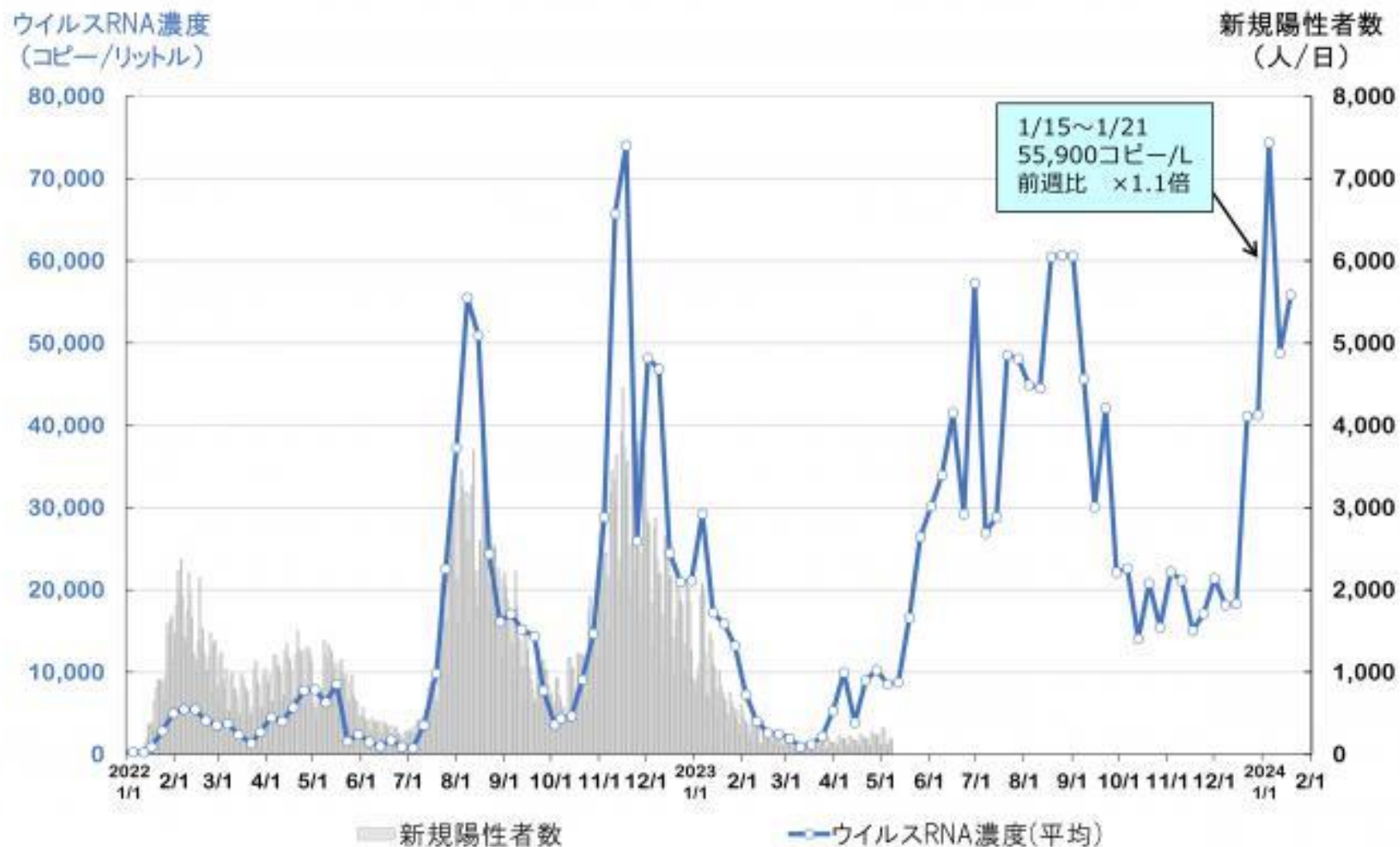
考案

2022年夏の時点で新型コロナワクチン接種回数が不十分な人々は、英国4地域で32・8%から49・8%の範囲だった。

ワクチン接種不足は、新型コロナ重症化リスクの上昇と関連していた。

新型コロナウイルス濃度は前週からやや増加して高い水準を継続しており、引き続き警戒が必要です。

下水サーベイランスの結果（新型コロナウイルス）



インフルエンザウイルス濃度は2週連続で減少しましたが**高い**水準を継続しており、引き続き注意が必要です。

下水サーベイランスの結果（インフルエンザウイルス）

